

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	持続可能な観光振興に向けたオーバーツーリズム対策 ～特定地域への入域制限・行動調整のあり方と方法論の現状と課題～				
研究組織	代 表 者	所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	寺崎 竜雄
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	経営情報学部・講師	氏名	寺崎 竜雄

講演題目
持続可能な観光振興に向けたオーバーツーリズム対策 ～特定地域への入域制限・行動調整のあり方と方法論の現状と課題～
研究の目的、成果及び今後の展望
○問題意識と研究目的 オーバーツーリズムによる自然環境の劣化、住民生活への負の影響、観光満足度の低下への懸念が増大し、「観光公害」との指摘もみられる。政府（2023 年 9 月）は要因を「混雑」「マナー違反」とし、対象は一部地域・時間帯に限定的だとした。実態は地域ごとに異なり、個別事案の精査と原因・対応策の蓄積が重要である。本研究は、過剰利用や不適切利用による資源の劣化・損壊を防ぐため、入域制限や行動調整が行われている事例として富士山の登山者管理を取り上げ、その経緯・現状・課題を整理することを目的とした。 ○来訪者管理戦略の形成（2013～2018 年） 富士山の世界文化遺産登録（2013 年）に際し、ユネスコ世界遺産委員会は全体構想の策定と来訪者管理戦略を含む保全状況報告書の提出を要請した。これを受け静岡県・山梨県は 2014 年に各種調査（通行量、GPS、アンケート、関係者ヒアリング）を実施し、「望ましい富士登山の在り方」を定義するとともに、指標設定（PLAN）、対策実施（DO）、評価・見直し（CHECK/ACTION）からなる方針を提示。さらに 2015～2017 年の調査を踏まえ、来訪者管理計画を策定し、2018 年にユネスコへ提出した。 ○来訪者管理計画の特徴 同計画では、混雑は限定的に発生するとの分析から、単純な登山者数規制ではなく、特定の日時・場所における混雑緩和を重視する指標を採用した。具体的には、「1 日当たり登山者数（吉田口 4,000 人、富士宮口 2,000 人）を超過した日数」を指標とし、吉田口は年 3 日以下、富士宮口は年 2 日以下とする目標水準を設定した。2018 年以降も継続的に動向調査が実施（モニタリング）されてきた。 ○近年の規制強化（2024 年以降） 山梨県は 2024 年に吉田口の登山者数上限設定（4,000 人/日）、入山時間規制、通行料徴収（2,000 円）を導入し、2025 年には規制強化と料金引き上げ（4,000 円）を実施した。静岡県も 2025 年から入山料 4,000 円を義務化した。これらの措置は、従来の管理計画に基づくものというより、直近の混雑状況を踏まえた緊急対応として導入されたものである。両県は安全性向上を評価し当面は規制を続けるものとしつつ、来訪者管理計画の見直しも視野に入れている。 ○考察と示唆 以上の経緯は、既存研究や調査に基づく方針が観光実態の急激な変化に十分対応できなかった可能性を示す。また、指標設定とモニタリングを軸とする順応的管理の有効性にも課題を投げかける。オーバーツーリズム研究においては、事例研究の蓄積と検証の重要性が改めて示唆される。